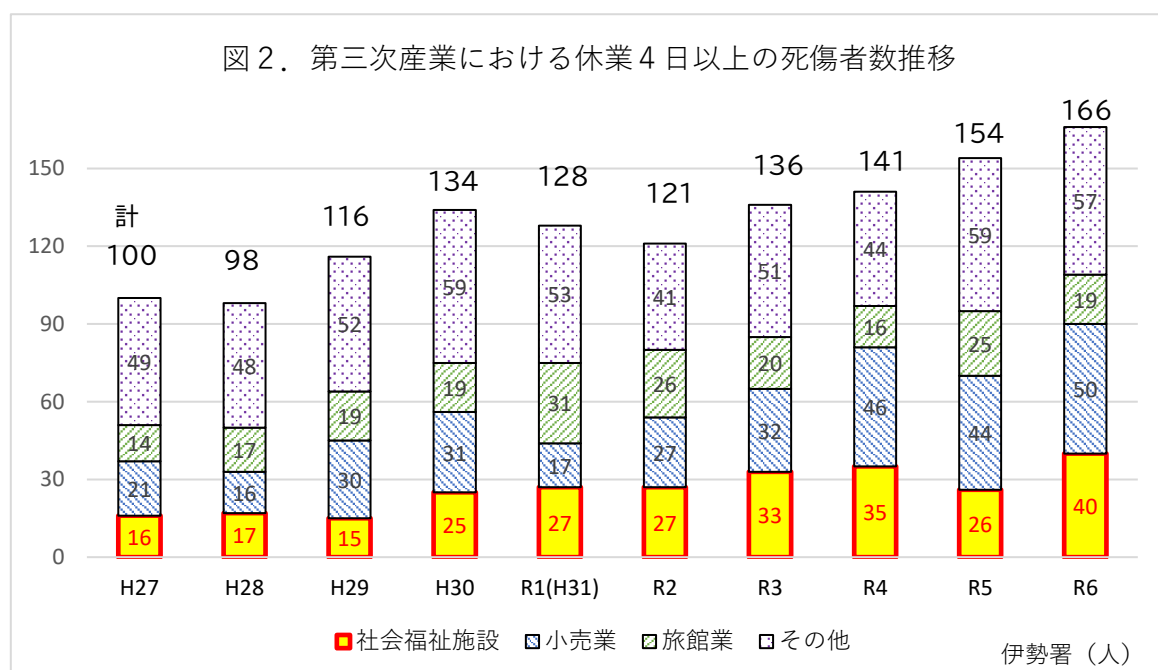
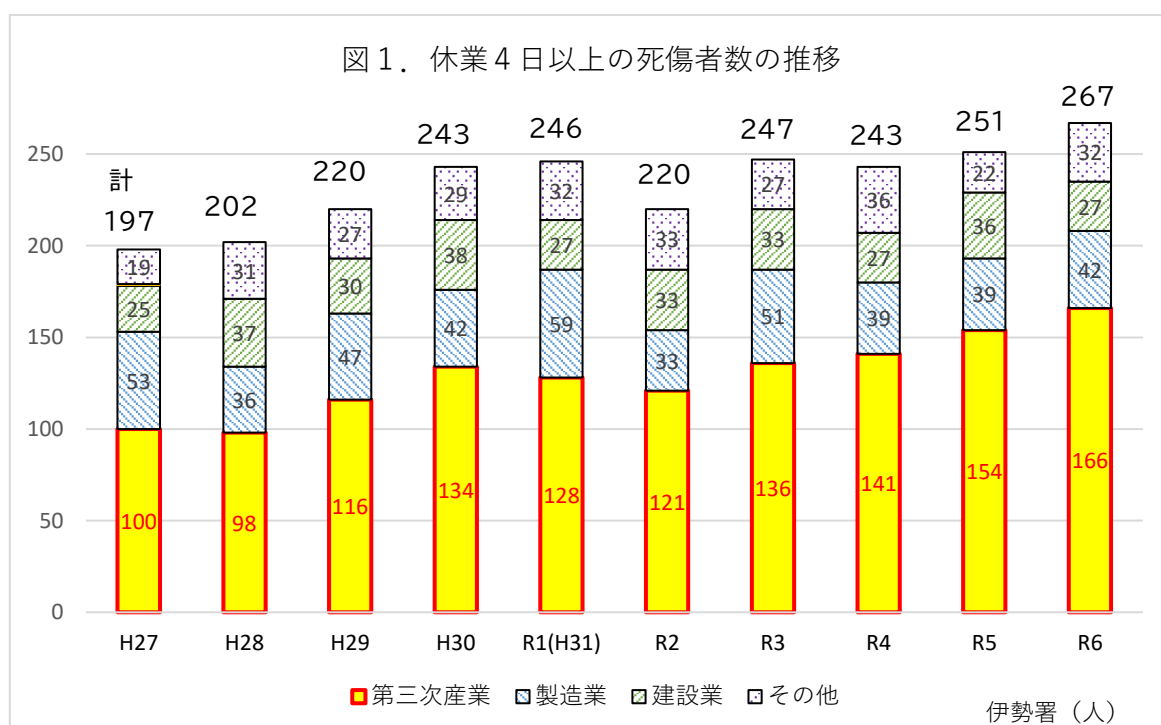


1. 労働災害発生状況の推移

伊勢労働基準監督署では、平成 27 年に労働災害による休業 4 日以上死傷者数 197 人を最小値として以降、増加傾向にあります。特に、令和 6 年は、休業 4 日以上死傷者数が **267 人**（うち死亡 2 人）となっており、**過去 10 年間で最悪**となりました。

また、労働災害の発生件数は、多くの業種で横ばい状態となっているところ、第三次産業は右肩上がりで増え続けており、第 14 次労働災害防止計画の重点業種に挙げられるなど、早急な対応が求められています。特に、令和 6 年の**社会福祉施設の労働災害発生数は、10 年前の 2.5 倍**にのぼります。

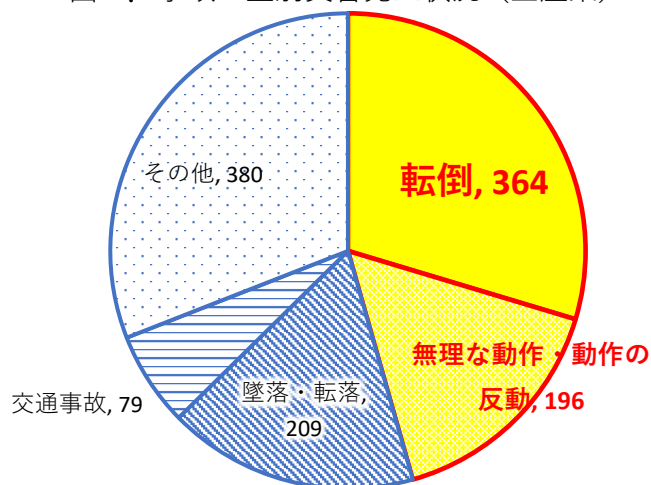


2. 事故の型別 労働災害発生状況

図3、図4は、令和2年から令和6年までの過去5年間に発生した休業4日以上労働災害を、事故の型別に示したグラフになります。

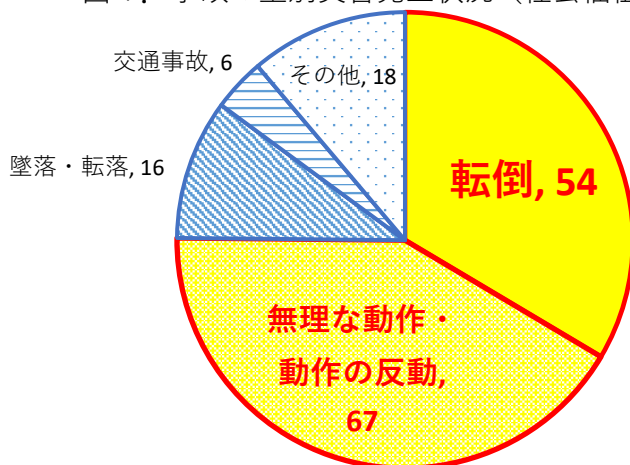
全産業では、転倒災害が最も多く、次いで墜落・転落災害が発生している一方、社会福祉施設に限ると、**腰痛等を含む無理な動作・動作の反動が最も多く、次いで転倒災害**が続きます。このため、社会福祉施設の災害の特徴として、**行動災害が全体の約75%**を占めています。

図3. 事故の型別災害発生状況（全産業）



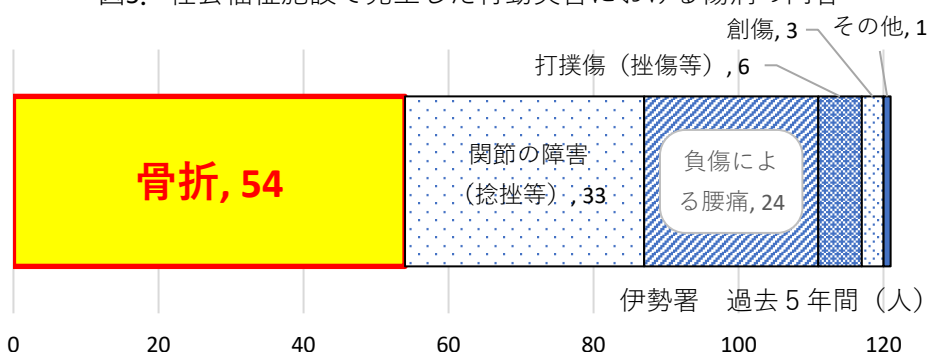
伊勢署 過去5年間 (人)

図4. 事故の型別災害発生状況（社会福祉施設）



伊勢署 過去5年間 (人)

図5. 社会福祉施設で発生した行動災害における傷病の内容



伊勢署 過去5年間 (人)

過去5年間に社会福祉施設で発生した行動災害（転倒及び無理な動作・動作の反動）121件のうち、およそ4割強の人が、骨折に至る怪我を負っています。

3. 年齢別 労働災害発生状況

図 6. 年齢別労働災害発生状況（業種）

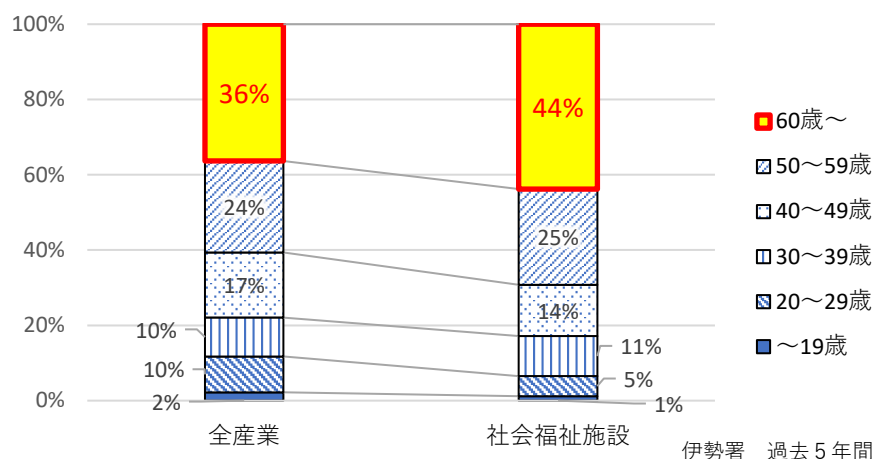


図6は、被災者の年齢を年代別に示したものです。社会福祉施設（右側）では、全産業（左側）に比べ、60歳以上の高年齢労働者の割合が高くなっています。

また、社会福祉施設で発生した休業4日以上の労働災害のうち、およそ7割が50歳以上の労働者となっています。

図 7. 社会福祉施設における年齢別労働災害発生状況（事故の型）

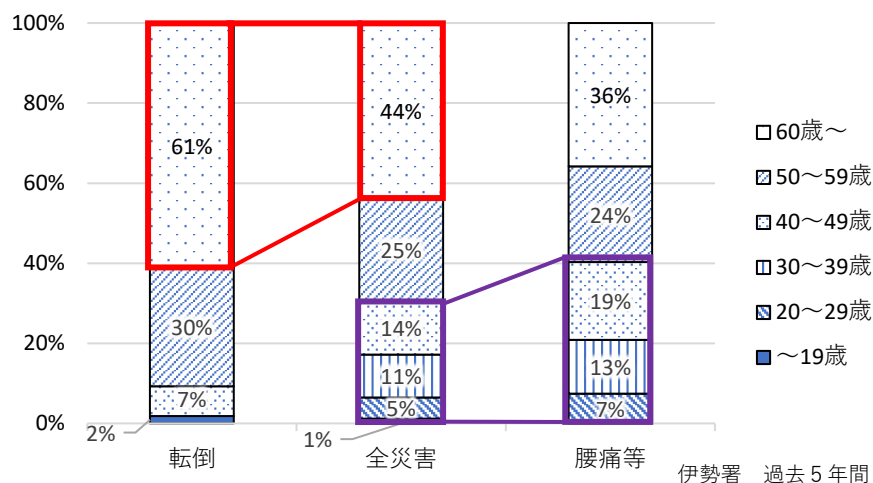


図7は、社会福祉施設で発生した災害のうち、被災者の年代を、事故の型別（転倒、全災害、腰痛等）に比較したものです。

転倒災害では、60歳以上の割合が非常に高くなっています。

腰痛等災害は、20代、30代といった比較的若い労働者であっても多く発生しています。

(日) 図 8. 社会福祉施設における行動災害発生分布図

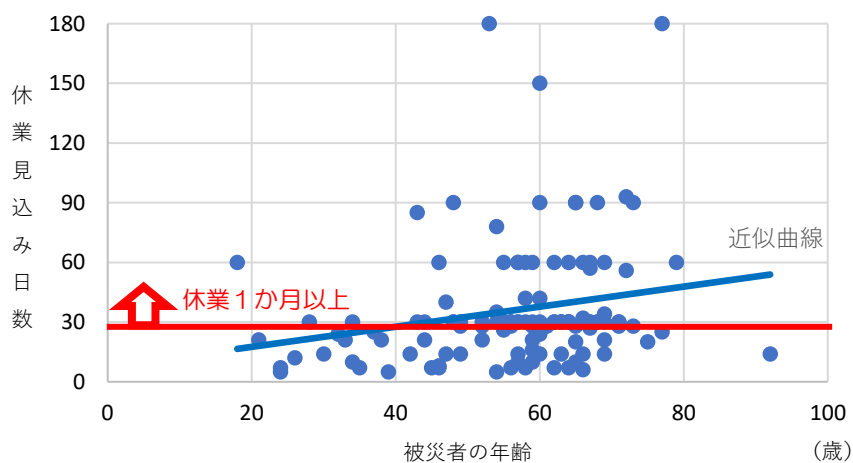


図8は、社会福祉施設で発生した行動災害のうち、被災者の年齢と休業見込み日数の関連性を可視化したグラフです。

年齢が上がるにつれて休業日数も増える傾向がみられ、特に50代以降は休業1か月以上に至る行動災害発生率が多くなっています。

Check!

- ・社会福祉施設の労働災害発生数は、10年前と比べ 2.5倍 に増加
- ・発生した労働災害の約75%が 行動災害
- ・高年齢労働者の災害が多く、重症化しやすい一方、腰痛等は若年齢層にも多く発生

4. 行動災害を防止するために ～簡易チェックリスト～

転倒災害の事例をみると、通路や作業スペースに置かれた物に「つまずく」、通路等が水や油でぬれていて「すべる」、階段等を降りている時に「踏み外す」という転倒災害が多く発生しています。**4S**（整理、整頓、清掃、清潔）の徹底を中心に、職場での転倒災害防止対策に取り組みましょう。

	転倒災害防止チェックリスト	☑
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	☐
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	☐
3	通路や階段を安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	☐
4	靴は、すべりにくくちょうど良いサイズのものをえらんでいますか	☐
5	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	☐
6	段差のある場所や滑りやすい場所などに、注意をうながす標識などをつけていますか	☐
7	ストレッチや転倒予防のための運動を取り入れていますか	☐

腰痛の発生要因は、腰部に過度の負担を加える動作要因、腰部への振動や温度、明るさなど転倒の原因となる環境要因、年齢や既往症又は基礎疾患などの個人的な要因など種々の要因があります。「職場における腰痛予防対策指針」に従って、**腰痛作業管理、作業環境管理、健康管理**及び**労働衛生教育**など総合的・継続的に腰痛防止対策に取り組みましょう。

	腰痛防止チェックリスト	☑
1	できるだけ重量物に身体を近づけ、重心を低くするような姿勢をとるようにしていますか	☐
2	床面から重量物を持ち上げる場合、片足を少し前に出し膝を曲げ、腰を十分に下ろして重量物を抱え、膝を伸ばすことにより立ち上がっていますか	☐
3	重量物を持ち上げるときは、呼吸を整え、腹圧を加えて行っていますか	☐
4	重量物を持った場合は、背を伸ばした状態での腰部のひねりを少なくするようにしていますか	☐
5	靴はすべりにくく、クッション性があるものをえらんでいますか	☐
6	作業場所などで、足もとや周囲の安全が確認できるよう適切な明るさを保っていますか	☐
7	ストレッチを中心とした腰痛予防体操を取り入れていますか	☐

【参考】



厚生労働省 HP「転倒災害の防止」
※リーフレット、動画、対策事例
などがDL できます。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000111055.html>

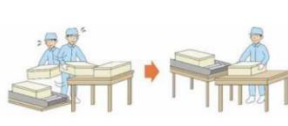
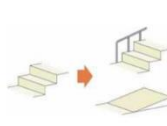


※「職場における腰痛予防対策指針」のポイントをまとめたリーフレットです。【PDF】

<https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/131114-01.pdf>

5. 高齢労働者による災害を防止するために

高齢労働者による労働災害を防止するためには、働く高齢者の特性に配慮した安全な職場を目指すことが重要です。「エイジフレンドリーガイドライン（高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン）」に従って、職場環境の改善に取り組みましょう。



エイジフレンドリー
ガイドライン【PDF】



エイジフレンドリー
補助金【厚労省 HP】